

射水市教育委員会 1 月定例会会議録

- I 開会日時 平成26年1月28日(火) 開会 2時30分
閉会 3時30分
- II 会議場所 下庁舎201会議室
- III 出席委員
眞岸委員長、宮原委員長職務代理者、大代委員、織田委員、結城教育長
- IV 会議事件説明員
橋詰教育次長、亀田教育次長、尾山学校教育課長、島田生涯学習・スポーツ課長、
仙田教育センター所長、正橋学校給食センター所長、原田新湊博物館長、杉本学校教育課主幹、吉野生涯学習・スポーツ課主幹、塩谷学校教育課長補佐
- V 傍聴人数 0人
- VI 会議の要旨
2時30分、委員長が開会を宣し議事に入った。
- 1 会議録の承認
承認された。
 - 2 教育長の報告
 - (1) 集団かぜ臨時休業措置の状況について
学校教育課長がインフルエンザの状況について詳細説明した。
 - 3 協議事項
 - (1) 全国学力・学習状況調査について
教育次長が結果公表のあり方について説明した。
 - 4 各課等の連絡事項及び報告事項
 - (1) 教育委員会表彰について
学校教育課長が資料1に基づき説明した。
 - (2) 教育委員会行事予定
学校教育課長補佐が資料2に基づき説明した。
 - 5 その他
 - (1) Q-U アンケート(教育センター)
教育センター所長が説明した。

次回教育委員会の開催日時について

日時・場所は、2月21日（金）午後3時から下庁舎で開催

6 議事

(1) 全国学力・学習状況調査について

[委員] 市としての公表は、国・県の流れとして、公表をするところにきていると考える。学校ごとの公表は、保護者や市民がそれを受け入れて、公平な目で見ただけのかは、不安材料があるように思えるので、学校ごとの公表はしない方が良く考える。説明のあったように、結果を分析して課題を明確にしながらか、どう取り組み、子どもたちの学力を伸ばすかを重点的に話し合ううえでの公表であればよいと考える。

[委員] 学校ごとの公表については、それほど必要ないと思う。それを見てどこまで変わるか、今はその段階ではないと考える。射水市としてのものがわかればよい。

[委員] 射水市としては良いが、学校ごとの公表については、必要ない。基本的に公表は反対である。文部科学省は当初、一人一人の児童・生徒の実態を調べ、課題を見つけ取り組んでいく。学力カルテのようなものを作り、三者面談時等で子どもの特性を話し、活用するというを聞いていた。結果公表は小学校はやるべきではないと思う。しかしながら、市立の学校ということから、税金を使っているため、設置者としての説明責任もあると思う。市全体としての結果及び分析結果を公表してもよいと考える。

[委員] 市としての結果公表も如何かという意見もあろうかと思いますが、順位だけに焦点がいく形にならないようにすることを考えていかなければならない。射水市の問題点に対し、どう改善していくかを説明できるようにしておく必要がある。学校は保護者から子どもたちの状況を聞かれることから、それぞれの学校の課題をていねいに学校が説明できるように、また、改善の取り組みを理解していただけるようにする準備が必要であり、準備について指導していく。また、学力向上委員会など、検討する組織を作ることも考えなければならぬし、教員の指導力を向上させるために、指導力の優れた教員に自覚・誇りを持って指導にかかわってもらような仕組みを作りたいと考えている。

[委員] 学力調査は児童・生徒一人ひとりの実態を見ること、課題を見つけること、教師が分析し授業のやり方の参考、課題克服のために使っていくことが重要と考える。公表は如何かと思うが、世の中の流れもあり、市全体のものは公表するものとし、学校ごとのものは、むやみな競争をあおることのないようにするため、公表を控えることで合意したい。学力向上委員会を基に児童生徒の学力の向上に努められたい。

[委員] 文部科学省は学力が落ちてきていることをいろいろなところから言われている。そこでまた、このような施策をするようになった。公表も市教委の責任でやりなさいというのは如何なものかと考えている。教育とはどうあるべきかという

ことをしっかりとやってほしい。昔は子どもの数が多く、目標をかなえるため真剣に勉強をした。また、貧困から脱するために一生懸命勉強した。現在は恵まれすぎていて、勉強しなくてもよくなっている。そのため勉強する子としない子と二極化している。もっと子どもたちの能力を生かす・発揮させる教育をしていかなければいけない。子どもに夢をしっかりと語らせる、夢に向かって進ませることが大切。

[委員] 国際比較において、日本の成績が下がったというのは、事象を覚えているかという試験ではなくて、それに対し、どう思うかとか、どう解決するかという問題であった。これまでの日本の試験とは大きく違った。このことから良い点数を取らせるよう日本の教育を変えようということになり、現在の学力学習テストは、簡単な漢字や計算、覚えているかということの他に、いろいろ考えて書くという問題がある。授業としては、自分の考えを発表したり、考えを書くといったものに少しずつ変わってきている。そのような問題が出されるようになり、そのためにどのような授業をすればよいのかということを考えて、授業を改善してきているところである。

[委員] 授業改善は行われているが、まだ、受験対策になっているような気がする。子どもたちの能力を引き出して、伸ばしてやる、自信を持たせれば、勉強をするぞという気持ちになる。

[委員] 授業改善については、学校を指導する手段の一つとして、県教育委員会の指導主事に指導してもらっているが、すべての先生に行き渡らなかつたり、単に技術的なところにばかり目が行ってしまつたりしているところもある。

学力向上委員会は学識者や保護者など学校以外の見方によって、学校自身が見直してもらおうということができないかと考えている。

[委員] 大事なものは、子どもの意欲を掻き立てるような授業改善をしていくこと。この学力テストを上手に活用してほしい。

(2) Q-U アンケートについて

[委員] 実施する時期はいつごろなのか。毎年するのか。

[事務局] 2回考えており、学級ができてしばらくした6月頃と、2学期の10月又は11月頃を考えている。予算の関係もあることから独自のアンケート調査を活用することも考えていく。いじめ等のアンケート調査も実施しており、その中にQ-Uのような問をいれることも考えられる。

[委員] クラス替えのタイミング2年に1回などにすることも考えられるのではないか。

[委員] 先生方が独自で分析をすれば、相当多くの時間を要することになるのでどうしてできないであろう。業者に依頼することで、早期発見につながる、先生の考え・思いと違うことも出てくる。データ分析を学級経営に生かすことで子どもたちが意欲を持って学習活動に取り組んでいけるというのが、2～3年に1回ということであれば、臨機に対応することができないこともある。

[委員] 記名式であり、上学年になるほど答え方によって、先生にどう思われるかと考え、気持ちに反して回答することがあるのでないか。担任の先生は、この子は無理しているのだなというところまでしっかり観てほしい。

[事務局] 問は同じようなことを逆から聞くものなどがあり、カバーできるところもある。自分とは違う形で出たときに、教師はそのズレを考え、そこから子どもに向かうことができる、よいチャンスにもなる。子どもの本音が出てくるととらえることができ、プラスになることがある。

[委員] 自身と違うものになった場合、教師は面談するなど子どもと早く向き合い、どのような状況かを見抜く力が必要となる。そういった教師に対する研修の充実も必要である。

[委員] 多様な子どもたちがおり、教員もいろいろな課題をもち、悩みも多いと思う。Q-Uに取り組むことで、学級運営が効果的なものになると考える。どのような効果が見られたかということも、今後、報告をしていただければありがたい。

3時30分、議事等が終了したので委員長が閉会を宣した。